黄泉の国の彩り

常設展示図録

Permanent exhibition pictorial record

熊本県立装飾古墳館

はじめに

熊本県立装飾古墳館は、装飾古墳を専門とした国内で初の博物館です。平成４年の「肥後古代の森」事業において、その中核施設として設置されました。世界的に有名な建築家、安藤忠雄氏の設計で前方後円墳の形を模しており、敷地内に県内最大級の「岩原双子塚古墳（墳長 107 m前方後円墳）」と向かい合うように造られています。

館内地下１階の「装飾古墳室」では、県内における主要な 12 箇所の装飾古墳レプリカ（ＦＲＰ製）が展示され、装飾古墳の特徴が間近に理解できるよう設計されています。

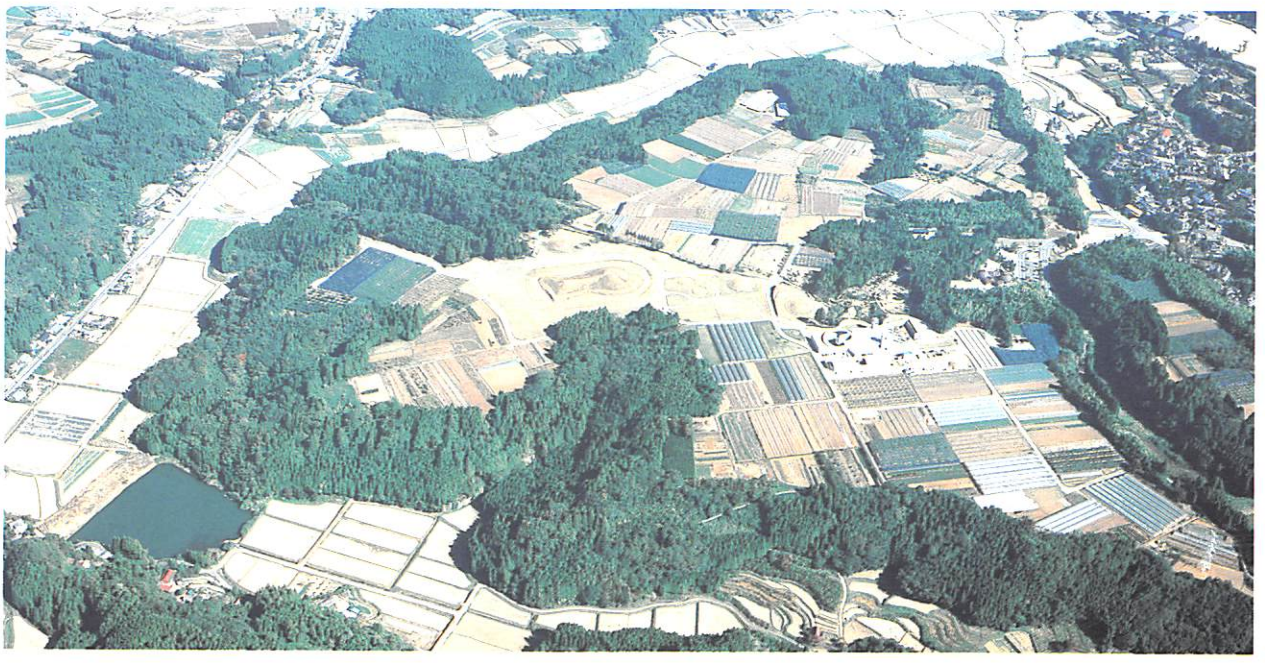
これらレプリカの最大の特徴は、原寸大で、現状のままであるという点です。実際の装飾古墳の多くは、保存上の問題から石室内への入室が制限されています。ガラス越しでの見学か、或いは見学が不可能なところがほとんどです。ところが山鹿市の「チブサン古墳」もこの展示室では直接に体感することができます。

当館では、精巧なレプリカを展示することで、現地では見えにくい冠を被った王の姿や、珍しい菱形文など数々の希少な装飾を、細部にわたって見学できます。

是非この機会に、貴重な装飾の美しさをご堪能ください。

平成 21 年 3 月 31 日

熊本県立装飾古墳館長　大田幸博



目　次

はじめに
1．装飾古墳とは…… 3
2．熊本県立装飾古墳館の役割…… 3
3．館内の施設・展示…… 4
4．県内の主要な装飾古墳…… 5
5．装飾古墳に使っている顔料とは…… 28
6．彩色に関わる研究…… 29
7．館内常設展示の考古資料…… 30
8．その他の装飾古墳…… 34
9．福岡県・佐賀県内の主要な装飾古墳…… 36
10．装飾古墳の解説…… 44

例　言

1. 本書は、熊本県立装飾古墳館の常設展示図録「黄泉の国の彩り」である。
2. 本書に使用した装飾古墳は、牛嶋茂氏（奈良文化財研究所）の指導により杉本和樹氏（西大寺フォト）が撮影した。

　また、熊本県立美術館で展示中の鴨籠古墳石棺、臼塚古墳石人、広浦古墳石棺石材は、江上邦博氏（有限会社カマノ商会）が撮影し、それ以外は池田朋生が撮影した。
3. 顔料の記載については、朽津信明氏（東京文化財研究所）の研究を引用した。
4. 本書の作成にあたり、写真整理、図版組は、大友由紀、宇野恵里、野方月美、菊川知美が行った。
5. 本書の執筆・編集は池田が行った。

1．装飾古墳とは

古墳内部の石室や石棺、あるいは横穴墓の壁面に彩色や浮彫、線刻を施したものを装飾古墳と呼んでいます。

こうした装飾を施す古墳は４世紀代から出現し、横穴式石室が盛んに造られた５世紀から７世紀にかけて、九州北部を中心に広がりました。

装飾古墳の定義が、研究者によって違うため、正確な数を集計するのは難しいのですが、装飾古墳館では、既知のものを検討し、また新規発見のものを調査して独自の集計を行っています。

平成19年５月現在、国内の装飾古墳総数は657基を数え、九州では367基と全国の半数以上が集中しています。また、熊本県内の装飾古墳総数は196基と全国で最も多く、特にここ菊池川流域には装飾古墳が数多く集中し、117基を確認しています。全国第２位の数を誇る福岡県内の装飾古墳は71基を数えることから、菊池川流域にいかに集中しているかが判ります。

初期の装飾古墳は石棺の外側や内側に、円文などの装飾を施していました。やがて、正方形の形をした石室の四方に石障（せきしょう）と呼ばれる板石を組み、そこに文様を刻み、色を塗るようになります。この装飾古墳は「石障系」と呼ばれ、熊本の装飾古墳の特長のひとつとして分類されています。

そして、この石障に代って、石屋形（いしやかた）と呼ばれる、開かれた棺が採用され始めると、石屋形に線刻を施したり彩色で文様が描かれるようになり、次第に石室の壁全体に装飾が広がるようになります。これらの装飾古墳は「壁画系」と呼ばれ、菊池川流域と福岡県を中心に全国で見られるようになります。

また、石棺の蓋に、浮彫や、線刻と彩色を施すものも見られます。これらは「石棺系」と呼ばれ、直弧文（ちょっこもん）や円文など様々な装飾が施されています。

更に、阿蘇熔結凝灰岩など、軟らかい岩肌に穴を穿つ横穴墓（おうけつぼ）の内外にも、線刻や彩色、浮彫などの装飾が施されます。この装飾古墳は「横穴系」と呼ばれ、熊本県内の実に６割がこの横穴系の装飾古墳で占められます。

県内、特に菊池川流域に装飾古墳が集中する理由のひとつは、約９万年前の阿蘇山の噴火時に火山性噴出物が堆積してできた阿蘇熔結凝灰岩（Aso-4）が豊富にあることと推察されます。

阿蘇熔結凝灰岩には、様々な硬さの石材があり、装飾古墳には程よい硬さの石材を選び、使用されたことが判っています。また、石材表面は多穴質であることから、塗られた顔料が染み込み、1500年経過した現在も鮮やかな彩色が残っていると考えられます。

2．熊本県立装飾古墳館の役割

熊本県立装飾古墳館は、県立としては、唯一の装飾古墳専門の博物館として、装飾古墳に関するあらゆるデータを収集しています。装飾古墳は南は宮崎県から、北は宮城県まで分布しています。これら実態調査及び資料収集によって、装飾古墳の基礎的な研究の活用に留まらず、広く市民への公開、普及を目的として企画展の開催や図録、研究紀要の刊行、あわせて体験学習などへの活

用を行っています。

また、四季の移り変わり、高温多湿な気候を特徴とする国内では、装飾古墳の保存は容易ではありません。そこで装飾古墳館では、装飾古墳の保存と公開に資するデータとして、各種環境調査や、装飾古墳のモニタリングを実施しています。

本館では、このような保存や公開における技術的な研究を通して、装飾古墳を管理する市町村教育委員会への支援も行っています。

更に、装飾古墳を形作る石材（阿蘇熔結凝灰岩、天草砂岩など）に関わる伝統的な石工技術、眼鏡橋などで目地として使用する「がんぜき」とよばれる伝統的な膠着材など、古くから続く土地の産業や技術にも注目し、文化財の保存修復技術の調査なども行っています。将来は、このような伝統的な技術を文化財の保存修復に応用することで、消え行く伝統産業の利活用にも役立つと考えています。

この他にも保存上の問題から、現在立ち入りが不可能な装飾古墳を対象に、大型フィルムによる記録撮影を実施し、貴重な写真資料の収集を行っています。こうして得られた写真資料は、フィルム以外にデジタル画像へ変換した上で、記録保存を図っています。

このようにして蓄積された写真データは、装飾古墳への理解と正しい周知化を目的に活用していますが、その他にも観光パンフレットや学術雑誌に必要な資料として、各種出版社、博物館、大学等研究機関などを対象に貸出業務を行っています。

3．館内の施設・展示

装飾古墳館は、前方後円墳の形を模した展示施設をもつ本館（展示棟）と、体験学習、各種講座やイベントを実施する実習棟、更にドングリの林に囲まれた体験ひろばに隣接する、屋外体験棟の三つの建物で構成されています。

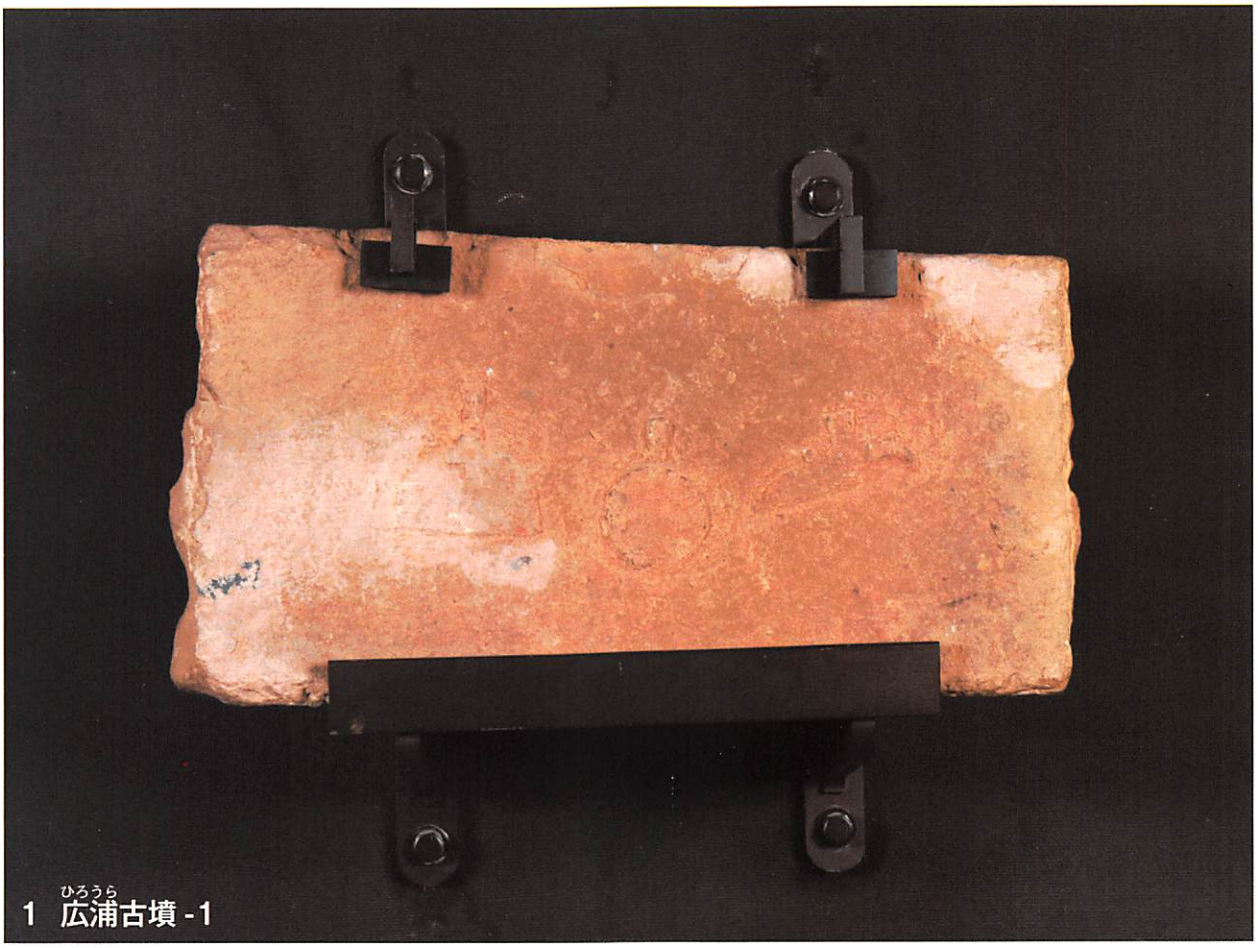
本館は、屋上に展望所を備え、１階は常設展示室、企画展示室、第二常設展示室の三室があり、地階は装飾古墳室、イマジネーションホール、屋外展示施設で構成されています。また、歴代館長の寄贈図書も公開しています。

常設展示室では、先土器時代から近現代までの県内主要な考古資料などを展示し、通史による紹介を行っています。

企画展示室では、年数回の企画展を開催していますが、肥後古代の森の中核施設として、５地区（鹿央地区・菊水地区・山鹿地区・菊鹿地区・菊池地区）で出土した考古資料の紹介は常時行っています。

第二常設展示室では、装飾古墳に使用された顔料分析結果について、最新の調査成果を紹介しています。また、数々の調査成果を活用し、最新の情報も併せて紹介しています。

4．県内の主要な装飾古墳



1　広浦（ひろうら）古墳 -1

2　広浦（ひろうら）古墳 -2

3 大鼠蔵東麓 1 号墳（おおそぞうとうろく）

4 鍋田（なべた） 27 号横穴墓 -1

5 鍋田（なべた）27 号横穴墓 -2

6 井寺（いでら）古墳 -1

7 井寺古墳（いてら）-2

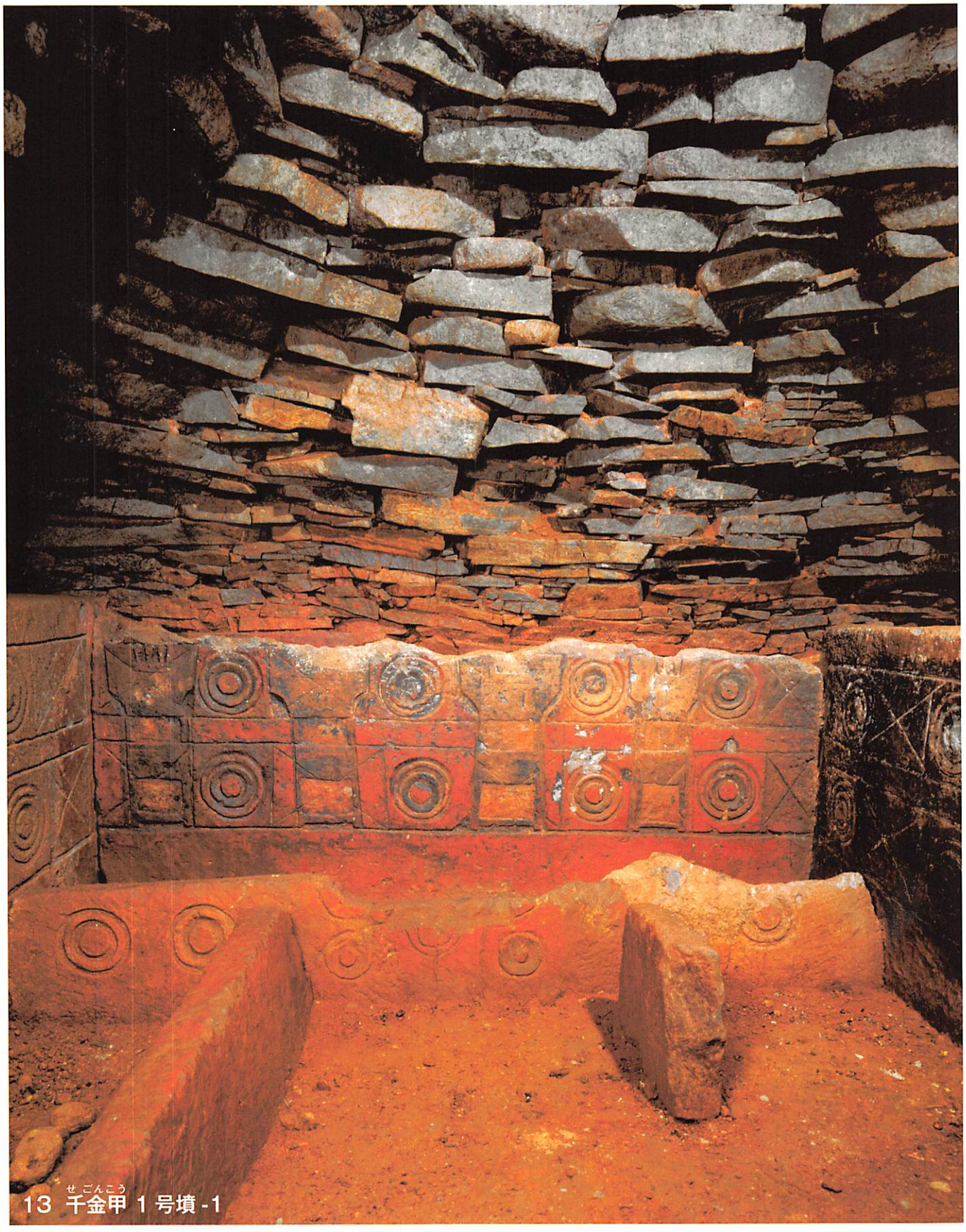
8 井寺古墳（いてら）-3

9 小田良古墳 -1

10 小田良古墳 -2

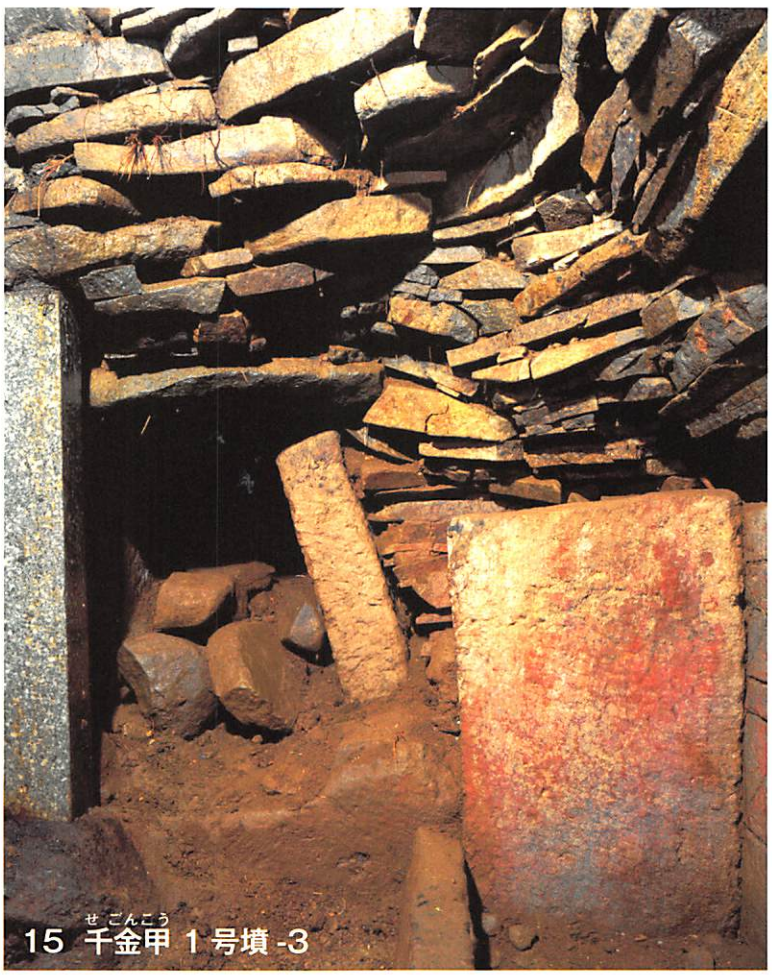
11 小田良古墳 -3

12 小田良古墳 -4



13 千金甲（せんこう）1 号墳 -1

14 千金甲（せんこう） 1 号墳 -2

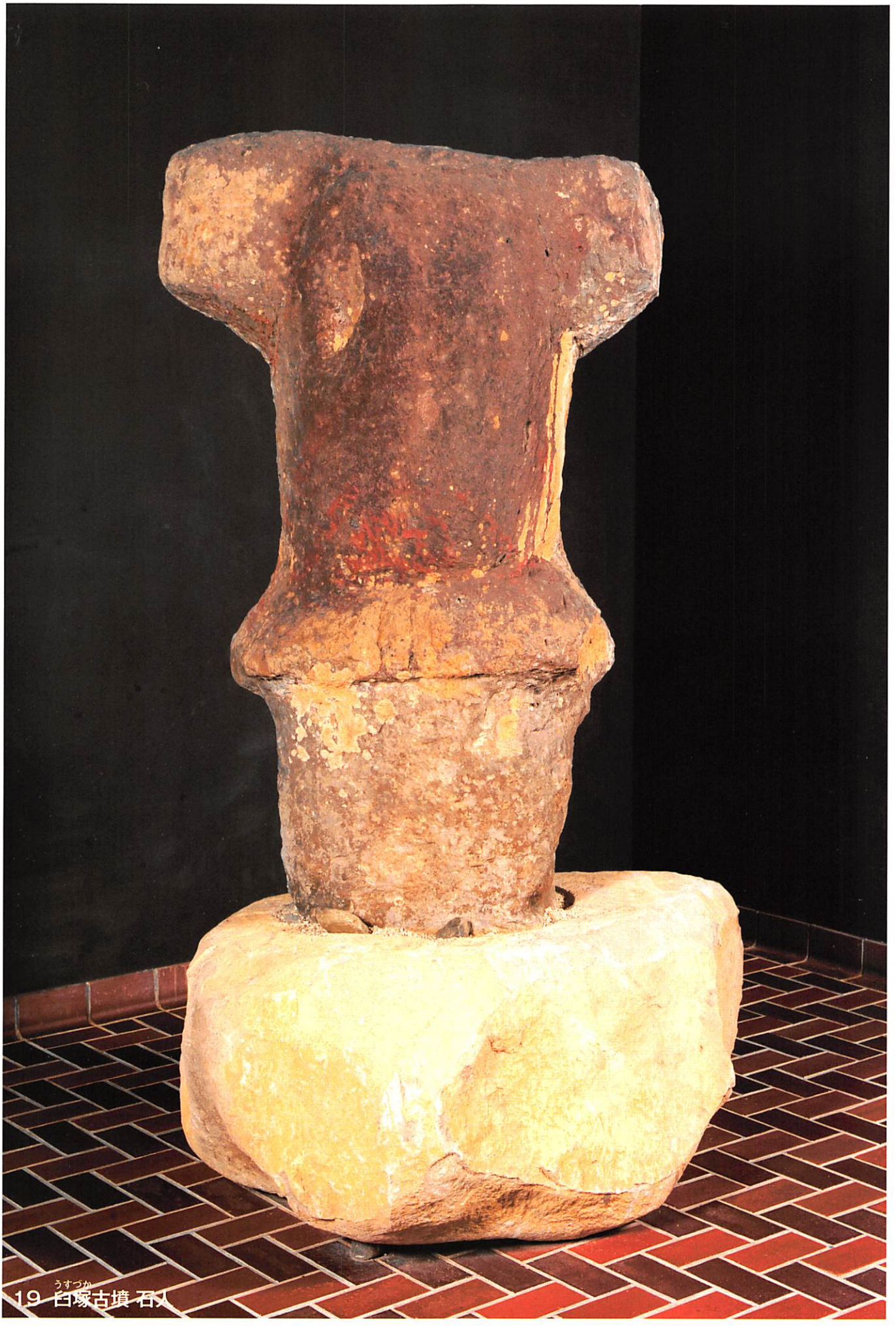


15 千金甲（せんこう） 1 号墳 -3

16 鴨籠古墳 石棺 -1

17 鴨籠古墳 石棺 -2

18 鴨籠古墳 石棺 -3



19 臼塚古墳 石人

20 チブサン古墳 - 1

21 チブサン古墳 -2

22 チブサン古墳 -3

23 大坊古墳（だいほう） -1

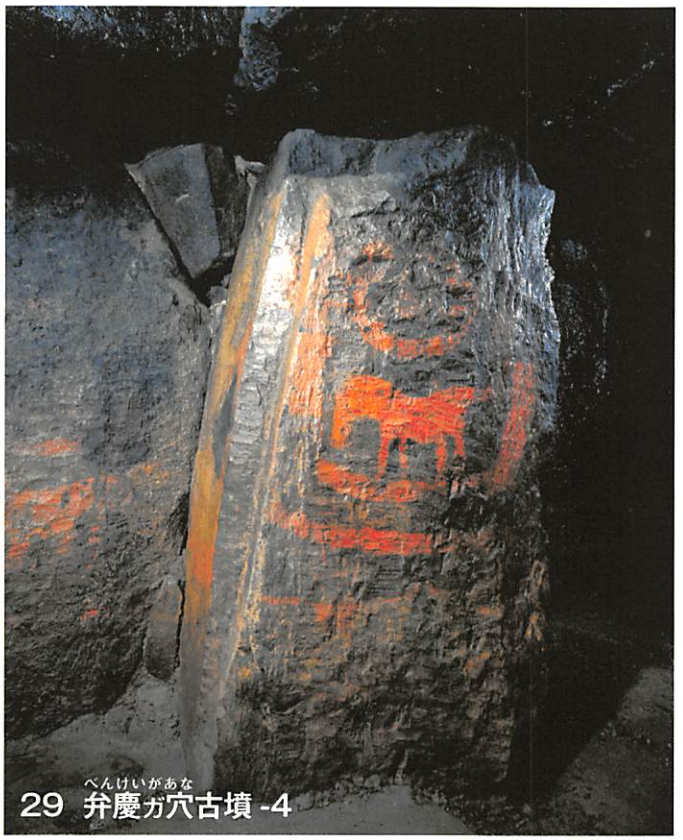
24 大坊（だいぼう）古墳 -2

25 大坊（だいぼう）古墳 -3

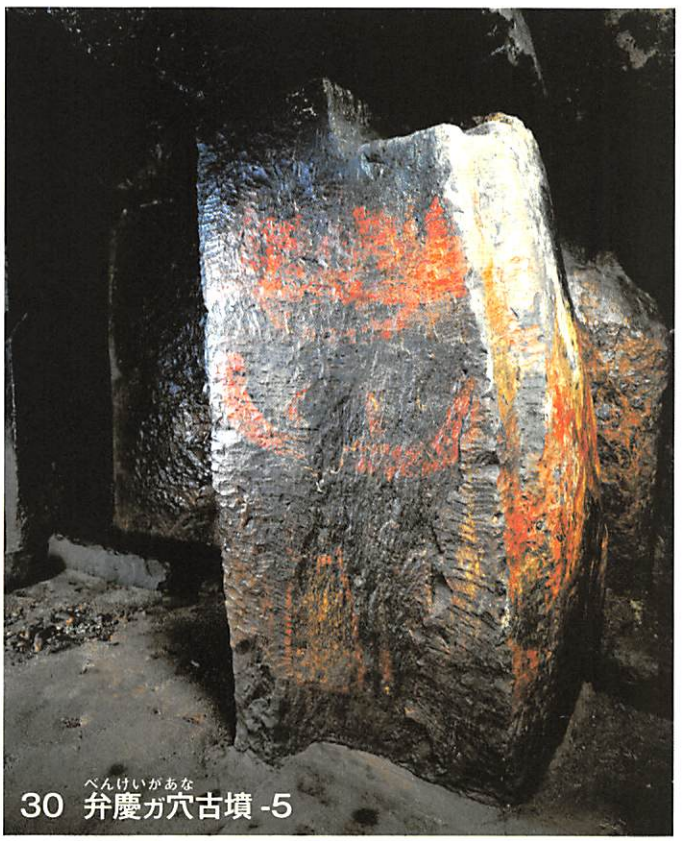
26 弁慶ガ穴古墳 -1
（べんけいがあな）

27 弁慶ガ穴古墳 -2

28 弁慶ガ穴古墳 -3



29 弁慶ガ穴古墳 -4



30 弁慶ガ穴古墳 -5

31 永安寺東古墳（えいあんじひがし）-1

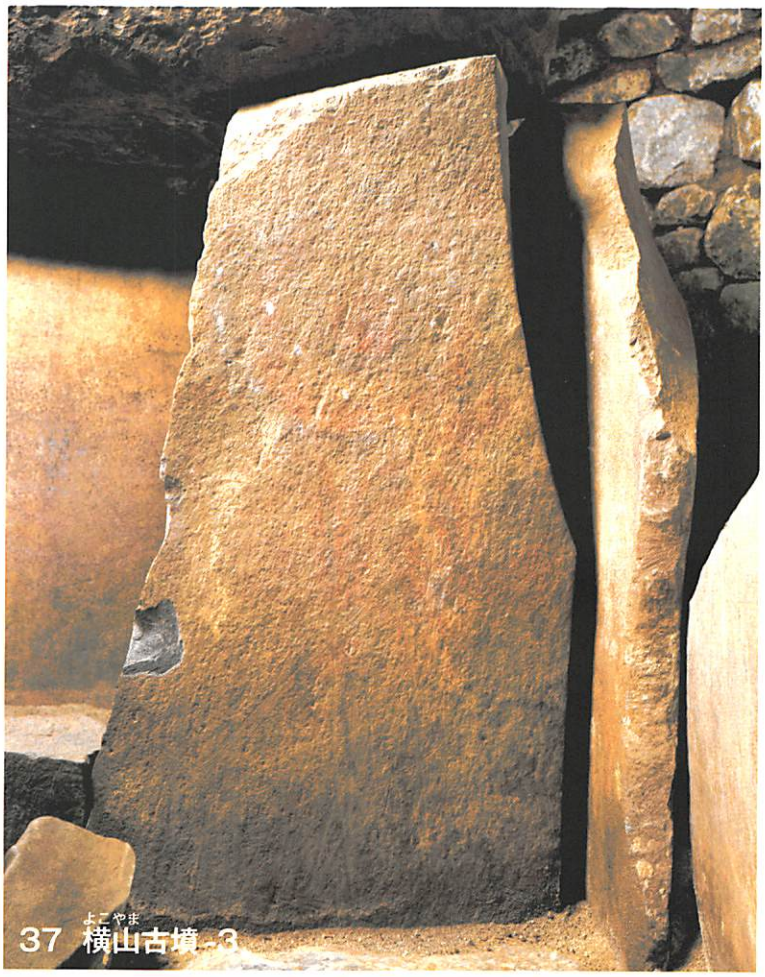
32 永安寺東古墳（えいあんじひがし）-2

33 永安寺東古墳 -3

34 永安寺東古墳 -4

35 横山古墳-1

36 横山古墳 -2



37 横山古墳 -3

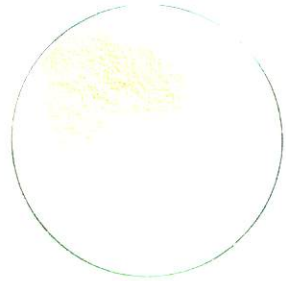
彩色（さいしき）された装飾古墳で使った絵の具

地元で採れる粘土、炭を利用しています。

緑色

緑色の顔料「緑土」

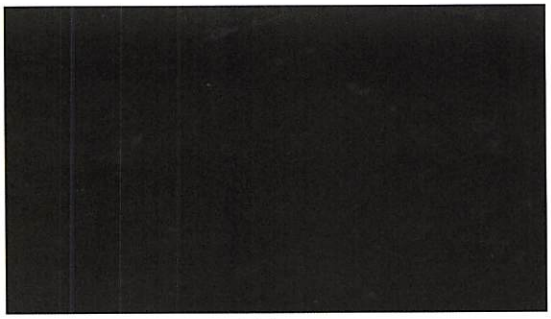
白色



白色の顔料「白土」

灰色

灰色の顔料「青灰色粘土」



黒色Ⅰ

黒色Ⅰの顔料「木炭」

黒色Ⅱ

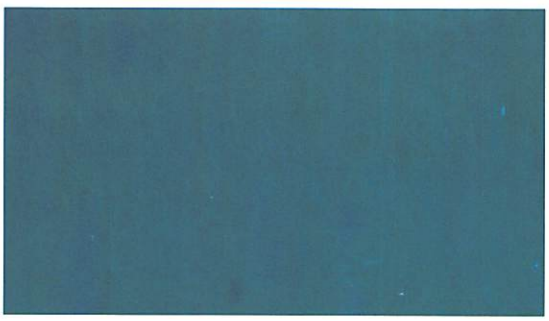
黒色Ⅱの顔料「黒土」

赤色

赤色の顔料「ベンガラ」

黄色

黄色の顔料「黄土」



これまで、装飾古墳に塗られていると考えられていた「青色」。実際には「青色」ではなく灰色が使われています。

かつて緑色の原料と考えられていた「海緑石（かいりょくせき）」

5．装飾古墳に使っている顔料とは

装飾古墳への強い関心は、彩色壁画への注目と言い換えても過言ではないでしょう。江戸時代、明和９年（1772年）『肥後国誌』という書物のなかの鍋田村条には、「産塚」という名前でチブサン古墳が登場してきます。

「産塚　塚に穴あり、その中はなはだ狭し、乳味乏しき婦女この穴に祈りて験あり、
賽に醴を供す　常に醴の香気あり」　※醴・・《ライ》甘酒のこと

嘉永２年（1849年）、江戸時代の終わりには、久留米藩士矢野一貞が鍋田横穴墓を訪れて、鍋田27号横穴墓の浮彫をスケッチしています。

明治に入ると、近代的な考古学研究が始まり、考古学に関する雑誌が出版され始めます。そのなかで、明治42年（1909年）に刊行された『考古界』（第７巻第10号）という雑誌には、波多巌氏によるチブサン古墳が報告されています。ここでは、当時の考古学の出版物としてはいち早く、チブサン古墳の彩色の報告にカラー図版が用いられました。

その後、大正６年（1917年）には、「装飾古墳」という用語を定着させるきっかけとなった『京都帝国大学調査報告第１冊』が刊行され、熊本の装飾古墳が豊富なカラー図版で紹介されています。

このように、装飾古墳の色彩に寄せる関心は当初から高く、初期の研究段階から顔料の科学分析も導入されていました。大正７年（1918年）の「考古学雑誌」には、小松利三郎氏による浮羽郡竹野村知徳古墳での赤色顔料の科学分析が最も早く報告されました。次いで、大正８年（1919年）には、『京都帝国大学調査報告第３冊』において、熊本市釜尾古墳の赤・白・「青」を対象とした近重真澄氏の分析報告が出されました。

装飾古墳の彩色を解き明かすべく、顔料の全ての種類を最初に分析しまとめたのは山崎一雄氏です。山崎氏は、昭和26年（1951年）、「装飾古墳の化学的研究」『古文化財之科学』２号において、九州の装飾古墳で使用されている顔料が、高松塚古墳や法隆寺金堂壁画などの仏教伝来以降に利用される顔料と大きく異なることを指摘し、はじめて時代差に言及しました。更に、黒色顔料に木炭とマンガンを含む土の二種が認められることに注目し、前者が福岡県の装飾古墳に使用例が多く、後者は熊本県の装飾古墳に多く使われるなど、地域差についても言及しています。

当館初代館長の原口長之氏も、装飾古墳研究の第一人者である斉藤忠氏の紹介で山崎一雄氏に弁慶ガ穴古墳の顔料分析を依頼しています。そしてその成果は、自らが編集・出版した雑誌『石人』に掲載しています。

その後、熊本県内の装飾古墳の顔料調査は、江本義理氏、朽津信明氏等によって精力的に進められ今日に至っています。

装飾古墳に用いられる顔料の分析成果は、その時代的背景の言及だけに留まらず、最適な保存環境を正しく理解することや、剥落・劣化などの原因を調べる為に、重要な研究テーマのひとつと言えるでしょう。

6．彩色に関わる研究

（1）装飾に残る加工の痕

石棺や石室表面には多種多様な工具の痕が残っています。当館で展示している装飾古墳レプリカは、実物の表面に錫箔を張り型を取って作られているため、この工具の痕跡が良く観察できます。装飾古墳の加工痕の観察によって、どのような道具を使い、どんな状態で造られていったのか、当時の製作技術に迫ることが可能です。

例えば、装飾がどの程度の時間で製作できるかということやどのような作業工程を経ているか、またその作業工程はどのような条件下で進められていたかなど、彩色技法のみならず、工程全般で検討できます。こうした研究を重ねることによって石室や石棺が破損して見つかった場合でも、正確に修復する技術として活用できます。

イマジネーションホールで視聴できるオリジナル映画、「生きている石人」では、石工の息子が石室のなかで顔料を塗るシーンが出てきます。手に持った筆のような痕跡は、実際に熊本市釜尾古墳などで見つかっています。石工の息子が装飾の彩色を描いているとき、被葬者である王は亡くなっていたのか、それとも王の生前に、命令により描いていたのか、なお検討が必要な点はいくつもありますが、工具の痕跡を丹念に調べることにより、様々な事が判ってきます。

（2）装飾を施す石材の硬さ

石室や石棺に使われる石材研究は、高木恭二氏・渡辺一徳氏等によって大きな成果があがっています。従来の説では、近畿地方にある大王の墓で使われる石棺石材は、奈良県にある二上山という山の石が使われていると考えられていました。ところが、調査が進むと阿蘇熔結凝灰岩で造られた石棺がいくつも見つかりました。熊本で装飾古墳に使われている凝灰岩が遠く近畿地方まで運ばれていることが判ったのです。

装飾古墳館では、更にこの凝灰岩（通称灰石―はいいし―）に注目しています。灰石加工に用いる専用の民具収集と民俗調査を通して、同一石材のなかでも硬度によって使用目的が異なることが判明しました。そこで伝統的な技術をもつ灰石専業の石工職人に、装飾古墳で使われた灰石の硬さについて鑑定を依頼しました。また、石の硬度を測定し、硬さを数値化して石工による鑑定の裏付けを行いました。

そもそも灰石は、一賽（約30cm四方）約30kgの軽くて軟らかい石材から、一賽約80kgの重くて硬い石材まで、種類は様々です。この石工職人による鑑定と、硬度の測定調査により、装飾古墳に用いられる部材は一賽50kg～60kgの石が好んで使われることが判明しました。

この一連の研究成果から、装飾古墳に使用できる石切り場の石材をあらかじめ選定しておくことで、修復部材のひとつとして今後活用することが可能になります。

また、装飾古墳に用いられた同種の石材に、装飾古墳の顔料と同種のものを塗りレプリカを造ることで、実験的に最適な保存環境の研究を行うことも可能となりました。

地下屋外展示場に設置している井寺古墳石障レプリカや千金甲古墳石障レプリカは、単なる展示物ではなく、保存上、貴重な顔料の「見え」について観察する検体となっています。

7．館内常設展示の考古資料

38

39

⑧-1

40

⑧ -2

41

⑨

⑩

42

⑪

43

44

45

46

47

48

49

写真番号	遺物番号	遺物の名称	読み仮名	遺跡(古墳)名	所在地	時期
38	①	石核	せっかく	石飛東遺跡	水俣市	先土器時代
	②	石核	せっかく	石飛東遺跡	水俣市	先土器時代
39	③	ナイフ形石器	ないふがたせっき	伊野遺跡	菊池市	先土器時代
	④	削器	さっき	伊野遺跡	菊池市	先土器時代
	⑤	細石刃	さいせきじん	伊野遺跡	菊池市	先土器時代
	⑥	細石核	さいせっかく	伊野遺跡	菊池市	先土器時代
	⑦	槍先形尖頭器	やりさきがたせんとうき	柿原遺跡	山鹿市鹿北町	先土器時代～縄文草創期
40	⑧-1	中広形銅矛	なかひろがたどうほこ	庄遺跡	山鹿市鹿本町	弥生時代中期後半
41	⑧-2	中広形銅矛	なかひろがたどうほこ	庄遺跡	山鹿市鹿本町	弥生時代中期後半
42	⑨	円筒埴輪	えんとうはにわ	金屋塚古墳	山鹿市	古墳時代後期
	⑩	円筒埴輪	えんとうはにわ	金屋塚古墳	山鹿市	古墳時代後期
43	⑪	画文帯神獣鏡	がもんたいしんじゅうきょう	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
44	⑫	高杯	たかつき	釜尾古墳	熊本市	古墳時代後期
	⑬	有蓋高杯	ゆうがいたかつき	釜尾古墳	熊本市	古墳時代後期
	⑭	高杯	たかつき	釜尾古墳	熊本市	古墳時代後期
	⑮	土師器赤塗り高杯	はじきあかぬりたかつき	釜尾古墳	熊本市	古墳時代後期
45	⑯	長頸壺	ちょうけいつぼ	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
46	⑰	銅椀	どうわん	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
47	⑱	ガラス製小玉	がらすせいこだま	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
	⑲	金環	きんかん	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
	⑳	硬玉製勾玉	こうぎょくせいまがたま	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
	㉑	銀製空玉	ぎんせいうつろだま	国越古墳	宇城市不知火町	古墳時代後期
48	㉒	滑石製臼玉	かっせきせいうすだま	小田良古墳	宇城市三角町	古墳時代後期
	㉓	ガラス製小玉	がらすせいこだま	小田良古墳	宇城市三角町	古墳時代後期
	㉔	青銅製鈴	せいどうせいすず	小田良古墳	宇城市三角町	古墳時代後期
	㉕	ガラス製棗玉・小玉	がらすせいなつめだま・こだま	小田良古墳	宇城市三角町	古墳時代後期
49	㉖	青銅製権	せいどうせいけん	小田良古墳	宇城市三角町	古墳時代後期
	㉗	銀製耳環	ぎんせいじかん	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期
	㉘	金銅製耳環	こんどうせいじかん	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期
	㉙	水晶製玉	すいしょうせいたま	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期
	㉚	メノウ製大玉	めのうせいおおだま	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期
	㉛	メノウ製勾玉	めのうせいまがたま	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期
	㉜	碧玉製勾玉	へきぎょくせいまがたま	横山古墳	鹿本郡植木町	古墳時代後期

8．その他の装飾古墳

ここでは、装飾古墳館では展示していない、県内の主だった装飾古墳を紹介します。
「　」書きは暫定的なもので、今後の研究で修正される可能性のある装飾を意味します。

50：白、赤、連続三角文（県指定史跡）
51：灰色、赤、白の双脚輪状文（国指定史跡）
52：「白」、赤の円文（県指定史跡）
53：線刻、赤の同心円文（県指定史跡）
54：赤、緑、線刻、正円の同心円文（国指定史跡）
55：格子目文の線刻（国指定史跡）
56：「船の線刻」
57：多数の船の線刻（県指定史跡）
58：板碑に転用された石障の一部に、
　　直弧文の線刻
59：直弧文の線刻（県指定史跡）
60：鏡を模した同心円文（県指定史跡）
61：円文（県指定史跡）
62：赤、「白」白は現在確認できず（県指定史跡）
63：同心円文浮彫、八代市立博物館蔵
64：円文、直弧文（町指定史跡）
65：円文（市指定史跡）
66：円文（県指定史跡）
67：円文（市指定史跡）
68：赤、円文（県指定史跡）
69：円文（市指定史跡）
70：円文
71：鏡を模した同心円文、円文
　　東京国立博物館展示
72：円文（市指定史跡）
73：赤、白、円文、熊本市立博物館蔵

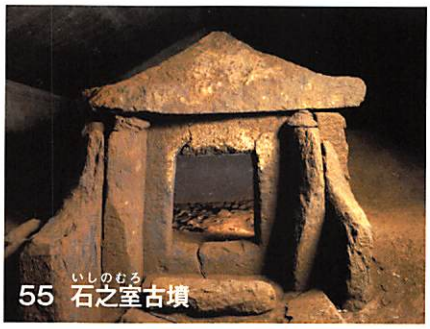
50 桜の上（さくらのうえ）Ⅰ-1号 横穴墓

51 釜尾（かまお）古墳

52 御霊塚（ごりょうつか）古墳

53 袈裟尾高塚（けさおたかつか）古墳

54 [illegible]

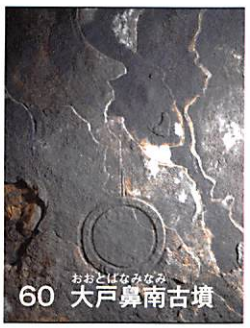

55 石之室古墳

56 宇土城石垣の古墳石材

57 桂原 1 号墳

58 三拾町板碑の古墳石材

59 長砂連古墳


60 大戸鼻南古墳

61 大戸鼻北古墳

62 大野窟古墳

63 門前 2 号墳

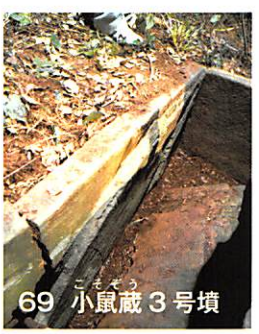
64 竜北高塚古墳

65 五反田古墳

66 大鼠蔵尾張宮古墳

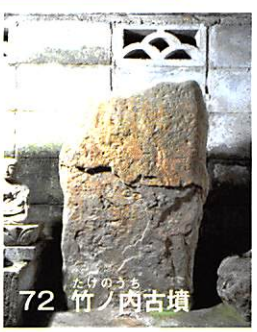
67 小鼠蔵 1 号墳

68 田川内 1 号墳


69 小鼠蔵 3 号墳

70 田川内 3 号墳

71 長迫古墳


72 竹ノ内古墳

73 中郡古墳

9．福岡県・佐賀県内の主要な装飾古墳

74 日岡古墳（ひのおか）-1

75 日岡（ひのおか）古墳 -2

76 五郎山（ごろうやま）古墳 -1

77 五郎山古墳（ごろうやま） -2

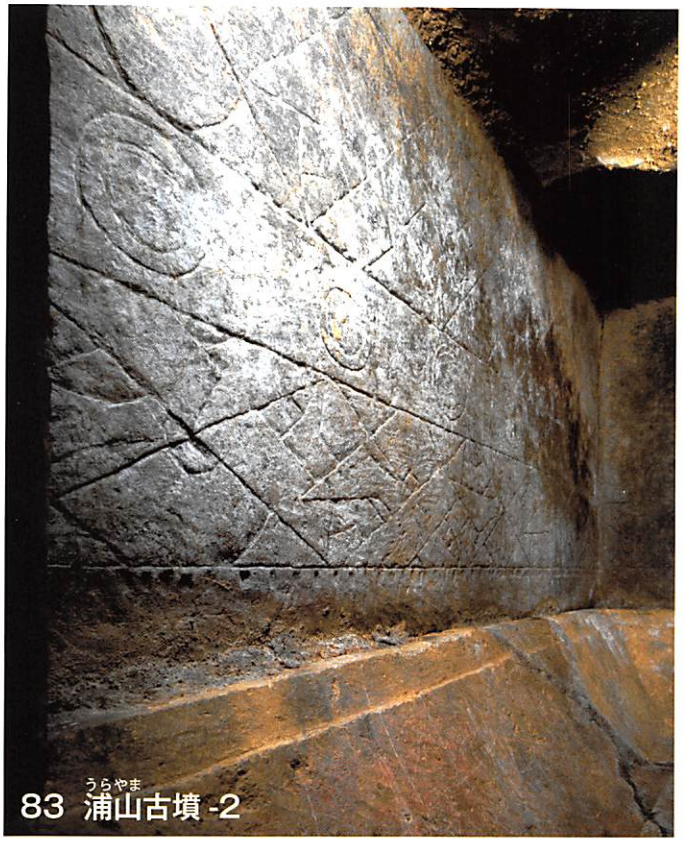
78 下馬場古墳（しもばば）

79 珍敷塚古墳（めずらしづか）

80 日輪寺古墳（にちりんじ）

81 鳥船塚古墳（とりふねつか）

82 浦山古墳 -1



83 浦山古墳 -2

84 石人山古墳

85 原古墳

86 田代太田古墳

8.7 寺徳古墳

10. 装飾古墳の解説

1・2　広浦古墳

砂岩製の箱式石棺材の一部と考えられています。浮彫で円文、大刀、刀子などを表現しています。具象画で、５世紀前半の築造と考えられますが、この古墳は消滅しており詳細は不明です。残された石材からかつては全面に赤彩が施されていたとみられ、今でも一部に顔料が残っています。実物は、熊本県立美術館で展示中です。

3　大鼠蔵東麓１号墳　県指定史跡

砂岩製の箱式石棺の一部とみられます。５世紀代のもので、鎧（よろい）、靭（ゆぎ）、弓などの具象画が線刻で描かれています。鎧から、三角鉄片を綴じた短甲の造りがよく判ります。実物は、八代市立博物館で展示中です。

4・5　鍋田27号横穴墓　国指定史跡

久留米藩士矢野一貞の『筑後将士郡談』でも紹介され、古くから知られていました。矢野一貞のスケッチには現在失われた装飾文様が描かれ、貴重な資料となっています。全面を赤色で彩色しています。肥後古代の森山鹿地区で屋外露天公開中です。

6・7・8　井寺古墳　国指定史跡

直弧文（ちょっこもん）で著名な古墳です。現在は、赤、白、緑の三色までは確認できます。６世紀初頭の円墳と考えられます。嘉島町教育委員会が管理しています。この古墳の見学には別途申請が必要です。

9・10・11・12　小田良古墳　国指定史跡

砂岩製の浮彫が施された、石障系の石室をもつ古墳です。特徴として羨道に高い段差をもち、奥壁にのみ靭（ゆぎ）、盾、同心円文があり独特の構成となっています。12個の同心円文が石室の周囲を巡っています。現地は調査後埋め戻されたため、見学はできません。

13・14・15　千金甲１号墳　国指定史跡

阿蘇熔結凝灰岩製の石障と安山岩製の積石で造られた円墳です。熊本市金峰山から延びる権現山の麓に位置し、有明海が一望出来る場所にあります。靭（ゆぎ）と同心円文が施され、赤色と、熊本県では唯一の黄色が塗布されています。また、奥壁の同心円文のうち、中心から二番目の円の輪郭にのみ緑色が残っており、装飾古墳では国内最古の緑色の使用と見られています。５世紀後半の築造と考えられます。非公開です。

16・17・18　鴨籠古墳　市指定史跡

棺蓋に線刻で直弧文を施す舟形石棺です。５世紀後半の築造と考えられる円墳です。かつては蓋に「青」と赤が塗られていたとの報告がありますが、現在は蓋と身の境にわずかに赤が確認できます。熊本県立美術館で実物を展示中です。

19　臼塚古墳　市指定史跡

当館で展示しているレプリカは、臼塚古墳に立っていた武装石人です。胴部に赤が残り、背中に靭（ゆぎ）が浮彫で表現されています。古墳は、６世紀前半の円墳と考えられ、石屋形内に線刻による連続三角文、赤、白、「青」が塗られているとの報告があります。古墳は非公開です。

20・21・22　チブサン古墳　国指定史跡

全国的にも著名な約44mの前方後円墳です。6世紀前半の築造と考えられています。チブサンは、その名の通り、「乳房さん」が言い換ったものと考えられています。顔のように見える特徴的な文様は、同心円文と三角文の組み合わせで、赤、白、黒が彩色されています。保存施設では毎日公開している全国唯一の装飾古墳です。古代の森「山鹿地区」で公開中です。

23・24・25　大坊古墳　国指定史跡

6世紀前半に築造されたと考えられる54 mの前方後円墳です。石屋形内に赤、灰色、黒で彩色された連続三角文が特徴的な装飾古墳です。現在は、秋に一斉公開が行われています。同じく装飾古墳である永安寺東古墳よりやや西側に位置します。出土品である垂飾付耳飾りなどは玉名市立博物館で展示中です。

26・27・28・29・30　弁慶ガ穴古墳　国指定史跡

直径約15mで6世紀の円墳と考えられています。船と馬と太陽、船と棺と鳥が赤色による彩色で描かれています。石棚を持ち巨石で造られた装飾古墳です。赤、灰色、白の三色で同心円文が塗られています。原口長之氏による調査で、桑原憲彰氏、前田軍治氏らにより実測、精査が行われ、汚れた煤の下から鮮やかな装飾文様が発見されました。現在は非公開となっています。

31・32・33・34　永安寺東古墳　国指定史跡

7世紀初頭に築造されたと考えられる円墳です。切石風の石室に、眉石（まぐさいし）にのみ花崗岩が用いられています。線刻と赤彩による装飾が施されているところは、全て阿蘇熔結凝灰岩製です。石室奥壁に向かって右側の前室壁側に、船の彩色のほか、顔料の滴りが判る円文が特徴的な装飾古墳です。茨城県ひたちなか市虎塚古墳の文様との関係が指摘されています。大坊古墳とともに、玉名市教育委員会により、秋に一斉公開されています。近接して永安寺西古墳があります。

35・36・37　横山古墳

かつて植木町にあった、6世紀前半頃の前方後円墳です。現在は、装飾古墳館のある「鹿央地区」に移設されています。安山岩製の石屋形に赤、灰色、白の双脚輪状文や、三角文が描かれています。夏期、厳冬期は、外気温と石室内気温の差が激しく、見学用のガラス窓が結露するなど、保存上の問題が生じるため非公開としています。10月～11月、3月～5月は屋外と石室内の気温差が少なく、原則公開しています。見学ご希望の方は、事前に装飾古墳館までお問い合わせください（TEL 0968-36-2151　装飾古墳館）。

74・75　日岡古墳　国指定史跡

現存する大きさが、74mの6世紀前半に築造された前方後円墳です。石室全面に連続三角文、同心円文などの幾何学模様の他、尻尾をたなびかせた躍動感あふれる馬の絵が描かれており、絵のすばらしさが見てとれる装飾古墳です。彩色は赤、白の他、緑色と灰色を併用することでも希少なものです。さらに奥壁や羨道に緑色を集中的に用い、側壁の一部にのみ灰色を使っており、緑色の代用として灰色が用いられたと考えられます。福岡県うきは市教育委員会が管理しており、春と秋の一斉公開時に見学できます。緑色と灰色を同時に用いる装飾古墳は、福岡県嘉穂郡桂川町王塚古墳、久留米市中原狐塚古墳とあわせ、3例しか見つかっていません。

76・77　五郎山古墳　国指定史跡

直径32mの6世紀後半に築造された円墳です。赤、緑色、黒の彩色により、船、家、武具類、人物が活き活きと描かれています。船は、山鹿市弁慶ガ穴古墳と同様に石棺を載せた様子が描かれています。福岡県筑紫野市五郎山古墳館が近接して造られており、レプリカ展示によって、石室内が見学できます。春、秋に一斉公開されます。

78　下馬場古墳　国指定史跡

直径約30ｍの6世紀末に築造された円墳です。赤、灰色で同心円文、靭（ゆぎ）、盾などを描いています。日岡古墳、寺徳古墳と似た構成の彩色壁画が見られます。

79　珍敷塚古墳　国指定史跡

かつては、円墳であったと考えられています。現在は、保存施設内に石室の一部が置かれています。同心円文、蕨手文、船、人物、蛙など赤、灰色の彩色で描かれています。6世紀後半に築造されたと考えられています。

80　日輪寺古墳　国指定史跡

5世紀末～6世紀初頭の古墳、線刻により同心円文、鍵手文などが刻まれ、赤色が残ります。春と秋の一斉公開で見学可能です。

81　鳥船塚古墳　国指定史跡

6世紀後半の円墳と考えられています。その名の示すように赤色の彩色で、鳥、船、人物、櫂のほか、同心円文や靭（ゆぎ）が描かれています。

82・83　浦山古墳　国指定史跡

5世紀後半に築造された墳長約60ｍの前方後円墳です。同心円文、直弧文などが線刻で施され、一部に赤色による彩色が見られます。春と秋の一斉公開で見学可能です。

84　石人山古墳　国指定史跡

墳長120mの5世紀前半の前方後円墳です。古い型式の直弧文の浮彫が、家形石棺の蓋に認められます。この古墳は見学が可能です。近接して福岡県八女市広川町古墳公園資料館があります。

85　原古墳　国指定史跡

直径18ｍの6世紀後半の円墳です。赤色で同心円文、櫂を持つ人や船が描かれています。

86　田代太田古墳　国指定史跡

直径42ｍの6世紀後半の円墳です。連続三角文、人、船、靭（ゆぎ）などが赤、緑色、黒で描かれています。特徴的な奥壁の連続三角文は、王塚古墳などでも見られます。

87　寺徳古墳　国指定史跡

直径18.9ｍの6世紀末の円墳で、赤、緑色の同心円文が特徴的な古墳です。左右非対称の同心円文による装飾は、日岡古墳や下馬場古墳でも認められるものです。

写真番号	名　前	読み仮名	所　在　地	時　期	図文の場所
1	広浦古墳 -1	ひろうら	熊本県上天草市大矢野町千束	5 世紀前半	
2	広浦古墳 -2	ひろうら	熊本県上天草市大矢野町千束	5 世紀前半	
3	大鼠蔵東麓 1 号墳	おおそぞうとうろく	熊本県八代市鼠蔵町	5 世紀代	石棺材
4	鍋田 27 号横穴墓 -1	なべた	熊本県山鹿市鍋田	6 世紀中	外壁　浮彫
5	鍋田 27 号横穴墓 -2	なべた	熊本県山鹿市鍋田	6 世紀中	外壁　浮彫
6	井寺古墳 -1	いでら	熊本県上益城郡嘉島町井寺	6 世紀初	奥壁石障
7	井寺古墳 -2	いでら	熊本県上益城郡嘉島町井寺	6 世紀初	石障（右）羨道側
8	井寺古墳 -3	いでら	熊本県上益城郡嘉島町井寺	6 世紀初	石障（左）
9	小田良古墳 -1	おだら	熊本県宇城市三角町中村	5 世紀中	奥壁石障
10	小田良古墳 -2	おだら	熊本県宇城市三角町中村	5 世紀中	石障（右）
11	小田良古墳 -3	おだら	熊本県宇城市三角町中村	5 世紀中	奥壁石障
12	小田良古墳 -4	おだら	熊本県宇城市三角町中村	5 世紀中	奥壁石障
13	千金甲 1 号墳 -1	せごんこう	熊本県熊本市小島下町	5 世紀後半	奥壁
14	千金甲 1 号墳 -2	せごんこう	熊本県熊本市小島下町	5 世紀後半	石障（右）
15	千金甲 1 号墳 -3	せごんこう	熊本県熊本市小島下町	5 世紀後半	羨道入口
16	鴨籠古墳石棺 -1	かもご	熊本県宇城市不知火町長崎	5 世紀後半	石棺
17	鴨籠古墳石棺 -2	かもご	熊本県宇城市不知火町長崎	5 世紀後半	石棺
18	鴨籠古墳石棺 -3	かもご	熊本県宇城市不知火町長崎	5 世紀後半	石棺
19	臼塚古墳石人	うすつか	熊本県山鹿市臼塚	6 世紀前半	
20	チブサン古墳 -1	ちぶさん	熊本県山鹿市城	6 世紀前半	玄室内石屋形
21	チブサン古墳 -2	ちぶさん	熊本県山鹿市城	6 世紀前半	石屋形内右壁
22	チブサン古墳 -3	ちぶさん	熊本県山鹿市城	6 世紀前半	石屋形左壁
23	大坊古墳 -1	だいぼう	熊本県玉名市玉名	6 世紀前半	玄室石屋形
24	大坊古墳 -2	だいぼう	熊本県玉名市玉名	6 世紀前半	前室
25	大坊古墳 -3	だいぼう	熊本県玉名市玉名	6 世紀前半	石屋形袖石
26	弁慶ガ穴古墳 -1	べんけいがあな	熊本県山鹿市熊入	6 世紀末	前室右奥壁
27	弁慶ガ穴古墳 -2	べんけいがあな	熊本県山鹿市熊入	6 世紀末	前室左壁
28	弁慶ガ穴古墳 -3	べんけいがあな	熊本県山鹿市熊入	6 世紀末	前室左壁
29	弁慶ガ穴古墳 -4	べんけいがあな	熊本県山鹿市熊入	6 世紀末	第二羨門右壁
30	弁慶ガ穴古墳 -5	べんけいがあな	熊本県山鹿市熊入	6 世紀末	第二羨門左壁
31	永安寺東古墳 -1	えいあんじひがし	熊本県玉名市玉名	7 世紀初	前室
32	永安寺東古墳 -2	えいあんじひがし	熊本県玉名市玉名	7 世紀初	玄室全景
33	永安寺東古墳 -3	えいあんじひがし	熊本県玉名市玉名	7 世紀初	前室右壁
34	永安寺東古墳 -4	えいあんじひがし	熊本県玉名市玉名	7 世紀初	前室左壁
35	横山古墳 -1	よこやま	熊本県鹿本郡植木町有泉（移設前）	6 世紀前半	石屋形右側袖石
36	横山古墳 -2	よこやま	熊本県鹿本郡植木町有泉（移設前）	6 世紀前半	石屋形全景
37	横山古墳 -3	よこやま	熊本県鹿本郡植木町有泉（移設前）	6 世紀前半	石屋形左側袖石
50	桜の上Ⅰ -1 号横穴墓	さくらのうえ	熊本県山鹿市鹿央町岩原	6 世紀末	
51	釜尾古墳	かまお	熊本県熊本市釜尾町	6 世紀前半	
52	御霊塚古墳	ごりょうつか	熊本県山鹿市鹿本町津袋	6 世紀後半	
53	袈裟尾高塚古墳	けさおたかつか	熊本県菊池市袈裟尾	6 世紀後半	
54	千金甲 3 号墳	せごんこう	熊本県熊本市小島下町	6 世紀後半	
55	石之室古墳	いしのむろ	熊本県下益城郡城南町塚原	5 世紀末	
56	宇土城石垣の古墳石材	うとじょういしがき	熊本県宇土市神馬町		
57	桂原 1 号墳	かずわら	熊本県宇城市不知火町長崎	6 世紀後半	
58	三拾町板碑の古墳石材	さじっちょういたび	熊本県宇土市三拾町	5 世紀後半～末	
59	長砂連古墳	ながざれ	熊本県上天草市大矢野町長砂連	5 世紀前半	
60	大戸鼻南古墳	おおとはなみなみ	熊本県上天草市松島町阿村	5 世紀後半	
61	大戸鼻北古墳	おおとばなきた	熊本県上天草市松島町阿村	5 世紀前半	
62	大野窟古墳	おおののいわや	熊本県八代郡氷川町大野	6 世紀後半	
63	門前 2 号墳	もんぜん	熊本県八代市岡町	5 世紀後半	
64	竜北高塚古墳	りゅうほくたかつか	熊本県八代郡氷川町高塚	5 世紀後半	
65	五反田古墳	ごたんだ	熊本県八代市敷川町	6 世紀	
66	大鼠蔵尾張宮古墳	おおそぞうおわりのみや	熊本県八代市鼠蔵町	5 世紀前半	
67	小鼠蔵 1 号墳	こそぞう	熊本県八代市鼠蔵町	5 世紀初	
68	田川内 1 号墳	たのかわち	熊本県八代市日奈久新田町	5 世紀末	
69	小鼠蔵 3 号墳	こそぞう	熊本県八代市鼠蔵町	5 世紀前半	
70	田川内 3 号墳	たのかわち	熊本県八代市日奈久新田町	6 世紀	
71	長迫古墳	なぐさこ	熊本県八代市日奈久大坪町	5 世紀後半	
72	竹ノ内古墳	たけのうち	熊本県八代市日奈久竹ノ内町	5 世紀後半	
73	中郡古墳	なかごおり	熊本県下益城郡美里町中郡	5 世紀後半	
74	日岡古墳 -1	ひのおか	福岡県浮羽市吉井町大字若宮若宮八幡	6 世紀前半	玄室奥壁
75	日岡古墳 -2	ひのおか	福岡県浮羽市吉井町大字若宮若宮八幡	6 世紀前半	玄室右壁
76	五郎山古墳 -1	ごろうやま	福岡県筑紫野市大字原田字五郎山	6 世紀後半	玄室右壁
77	五郎山古墳 -2	ごろうやま	福岡県筑紫野市大字原田字五郎山	6 世紀後半	玄室奥壁
78	下馬場古墳	しもばば	福岡県久留米市草野町大字吉木字下馬場	6 世紀後半	玄室奥壁
79	珍敷塚古墳	めずらしづか	福岡県浮羽市吉井町大字富永字西屋形	6 世紀後半	玄室奥壁
80	日輪寺古墳	にちりんじ	福岡県久留米市京町日輪寺境内	5 世紀末～ 6 世紀初	奥壁石障
81	鳥船塚古墳	とりふねつか	福岡県浮羽市吉井町大字富永字古畑	6 世紀後半	玄室奥壁
82	浦山古墳 -1	うらやま	福岡県久留米市上津町浦山字二軒茶屋	5 世紀後半	石棺
83	浦山古墳 -2	うらやま	福岡県久留米市上津町浦山字二軒茶屋	5 世紀後半	石棺内面
84	石人山古墳	せきじんさん	福岡県八女市広川町大字一条字人形原	5 世紀前半	石棺
85	原古墳	はる	福岡県浮羽市吉井町大字富永字西屋形	6 世紀後半	玄室奥壁
86	田代太田古墳	たしろおおた	佐賀県鳥栖市田代本町字太田	6 世紀後半	玄室奥壁
87	寺徳古墳	じとく	福岡県浮羽市田主丸町大字益生田字寺徳	6 世紀末	玄室奥壁

交通機関のご案内

■バス（産交バス）

熊本交通センター ←約60分→ 山鹿
※新道経由米田農協前バス停下車徒歩30分

山鹿 ←約50分→ 玉名
※米ノ岳経由装飾古墳館入口バス停下車徒歩20分・
東郷経由長岩バス停下車徒歩20分

■タクシー

産交バス山鹿営業所より10分

■自家用車

熊本市内より約60分
菊水インターより約15分
植木インターより約15分

「黄泉の国の彩り」
常設展示図録

平成21年3月発行

発行・執筆・編集
熊本県立装飾古墳館
〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
TEL 0968-36-2151（代） FAX 0968-36-2120
印刷
株式会社サンカラー
〒861-8035 熊本市御領2-19-13
印刷仕様
版型／A4版　製版／AMスクリーン280線
頁数／本文48頁　製本／左無線綴じ
印刷／オフセット印刷　表紙加工及び仕様／マット加工

20 教委 熊古
⑥ 003

装紙写真 チブサン古墳

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 常設展示図録 第2集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：黄泉の国の彩り
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦2018年6月1日